



豊かな河北潟に
夢のある干拓地に

NPO法人河北潟湖沼研究所通信

かほくがた



CONTENTS

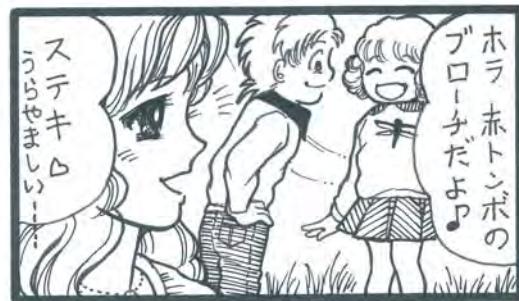
金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ	1p
河北潟の仲間たち・37 「赤とんぼ」	2p
生きもの元気米の早期予約と、 生きもの元気米生産量UP	3p
ゆうぐれ金曜マルシェはじまる! 出店農家① 楽園果実 石橋農園	4p 5p
活動報告 河北潟湖面利用協議会 七豊米の米づくり	6p 7p
お知らせ・活動案内	8p

金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

2015年4月から金沢駅西イベント広場でマルシェの定期開催をはじめました。金沢の市街地近郊にある河北潟の農産物を、採れたて新鮮な農産物が手に入りにくい金沢の中心地で直接販売することにより、色々な交流が生まれ、食と環境を守ることにつながると考えています。マルシェには無農薬や有機栽培など、健康や環境に配慮したこだわり農家を中心に、また河北潟だけでなく、能登や近隣中山間地もふくめ、出店者を募っています。開催日は、住民やビジネスマンが新鮮な野菜を買って週末の食卓を楽しんでほしいとの思いから、金曜日の夕方に開催することが決まり、「金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ」と名付けられました。

開催から2ヶ月ほど経ちましたが、会社帰りの方だけではなく、近隣住民の方が足を運んでこられます。また、地元の野菜であることや、無農薬の野菜や果物が、子供連れのお母さん方に喜ばれています。毎月2回の開催ですが、楽しみにしていたと、まとめて買って行かれる方もみられ、金沢駅西口の定期イベントとして根付いてきました。本マルシェは、消費者と農家が互いに美味しい、新鮮、安心を求めあう場となることを望んでいます。ぜひ新鮮な農産物を買いにきてください。

第37回 赤とんぼ



分類学的にはトンボ科アカネ属の仲間ですが、一般的に胴体が赤く中くらいのサイズのトンボを総称して「赤とんぼ」と呼んでいます。代表的な種であるアキアカネをはじめとしてナツアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネなど、10種類以上のトンボがいます。秋になると水田に集まり産卵することから、赤とんぼが群舞する夕焼けは日本の秋の風景として童謡に歌われたりしています。

ところが最近、赤とんぼが姿を消すという現象が確認されるようになってきました。確かに以前は河北潟干拓地でも秋になるとさほど赤とんぼが飛び回っていましたが、最近ではちらほら見かける程度になっています。

石川県立大学の上田哲行さんは、アキアカネが夏の間を過ごす高地での観察結果から、2000年頃から急速にアキアカネが減少しており、1900年代からみると100分の1以下になっていることを突き止めました。こうした急激な減少と90年代後半から普及してきたイネの育苗箱への農薬使用とが関係している可能性が考えられました。そこで、上田さんらのグループが、育苗箱の殺虫剤のアキアカネの幼虫への影響を調べたところ、フィプロニルという農薬を使った実験地では、アキアカネの羽化が全く確認されず、ネオニコチノイド系と呼ばれるジノテフランやイミダクロプリドという農薬では30%程度しか羽化しなかったという結果が得されました。

ネオニコチノイド系農薬は植物への浸透性と圃場への残留性があることを特徴としておりますが、フィプロニルという最近使われている農薬も同様の特性を持っています。

国立環境研究所の早坂大亮さんらは、これらの農薬についてトンボ類の幼虫への長期的に影響を与えることを指摘しています。これらの新しいタイプの農薬は、使いやすく効果が長持ちし、さらに安全性の高いものとして、かつての有機リン酸系の殺虫剤に変わって近年良く使われています。一方で、ミツバチへの深刻な影響や人の神経系への影響も指摘されており、学術的には論争になっています。ヨーロッパでは期間を限定してネオニコチノイド系農薬の使用を制限しています。一方、日本では一部の農産物で残留基準が緩められました。

赤とんぼが群飛する日本の秋の復活には、まだまだ困難がありそうですが、今、河北潟ではネオニコチノイド系を含む農薬の空中散布をおこなわない「生きものの元気米」の取り組みを進めています。必要なない農薬は使わないという選択が進み、農業にとっては益虫である赤とんぼがいる風景を大切にする水田が増えるように、皆様の応援をよろしくお願ひいたします。（文：高橋 久）

生きもの元気米 早期予約、 応援ありがとうございました！

生きもの元気米の取り組みを広めるため、昨年の12月から早期予約の受付をはじめました。購入いただける数量を予測できなければ、2015年の生きもの元気米の生産量を増やすことができませんので、通常価格よりも少し値下げして、早い段階から予約を募りました。また、今年の2月からは、右のようにインターネットでも呼びかけさせていただきました。これは、国際環境NGOグリーンピース・ジャパンさんからアドバイスをいただいて展開することができ、生きもの元気米が販売されることにより、ネオニコチノイド系農薬不使用エリアが拡大されるというわかりやすい表示を試みました。そのことで、大勢の方が取り組みに賛同し、応援くださいました。早期予約は、4月12日で受付を締切りました。

早期予約注文を経て

早期予約では、約1,400kgのご注文をいただき、これは面積に換算すると約2,660m²となりました。予約注文をいただいたことで、農家さんにも現実的な話ができ、2014年の生産量約1.5トンから、2015年産生きもの元気米は4.9トンを契約するにいたりました。今年は河北潟の周りにある7枚の田んぼで生きもの元気米が生産され、ネオニコチノイド系農薬等の空中散布をせず、畦に除草剤を散布せずにつくられます。

2015年産生きもの元気米

昨年の生産者は全員コシヒカリでしたが、今年新しく参加した安田明正さんは、石川県でのみ栽

NPO法人河北潟湖沼研究所が提案する河北潟の水辺環境を保全するお米

NPO 法人河北潟湖沼研究所

ネオニコチノイド系を含めた殺虫剤の空中散布をしない・畦の除草剤を使わない・田んぼの生きもの調査をするお米

生きもの元気米

HOME 生きもの元気米のこと 予約・購入 田んぼと農家紹介 生きものコーナー 最新情報

平成27年産「生きもの元気米」早期予約 4月12日まで延長！

通常よりもお得な早期予約、当初受け付けは3月31日までの予定でしたが、ご好評をいただいていること、生きもの元気米への参加農家がさらに増える見込みができたことから、早期予約受付を4月12日（日）まで延長することとなりました！

早期予約の特別価格は[こちら](#)でご確認ください。ご予約方法は[こちら](#)です。

皆様からのご予約でネオニコ不使用エリア拡大！

早期予約があることで、平成27年の生きもの元気米参加農家を積極的に増やすことができます。皆様のご予約がネオニコ不使用エリア拡大につながります。ご協力をお願いします。

予約フォームは[こちら](#)です。

* 生きもの元気米の通常価格は4月以降改定されます。お得な早期価格でぜひご予約を！

* 27年の生きもの元気米生産に向けて農家さんも動き始めました。[こちら](#)よりどうぞ！

早期予約による
ネオニコ不使用エリア
面積拡大中！

01694 m²

3月31日13:41現在

培されている「ゆめみづほ」を生産します。お米の品種もえらべるようになりました。

田んぼコード

今年から新たに田んぼを識別するコードをつけています。生きもの元気米の特徴の1つは、「田んぼごとにお米を管理する」ことです。誰がどの田んぼでつくったものかがわかる仕組みになっています。昨年は4軒の農家で、田んぼは各農家1枚ずつでしたが、今年は農家も田んぼも増え、1軒の農家が2枚の田んぼで生産するケースもでてきました。「田んぼコードを」がつくことで、管理しやすく、食べる方も、どの田んぼのお米かが明確にわかります。

品種、田んぼ、農家さん…、選ぶ楽しみがたくさんある「生きもの元気米」は、8月下旬に収穫される早生品種のゆめみづほから順次発送していく予定です。お楽しみに！！

金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェはじまる！

TOPページでもご紹介しましたが、「金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ」の定期開催を今年の4月からはじめました。人と環境にやさしい野菜などを普及するため、北陸新幹線が開業した金沢駅西広場において、農家と消費者がつながる場(市・マルシェ)を創出します。河北潟周辺の野菜の魅力発信および地産地消の推進、河北潟周辺の環境を保全するサポートづくりを目的としています。

サブテーマは「農家が届けるおいしい週末」

近隣住民やビジネスマン、観光客などが帰宅時に新鮮な野菜を買って週末の食卓を楽しんでほしいとの思いがあります。

毎月2回、金曜日の夕方に開催

今年は毎月2回のペースで開催します。7月は夏休みシーズンで、また野菜の最盛期ですので毎週開催いたします。開催時間は16時から18時30分、売り切れ次第終了となります。

宣伝、販売促進にむけて

ホームページやフェイスブックにより開催予告やマルシェの様子を掲載しています。また、周辺地域にチラシのポスティングをおこなっています。地域に定着し、食と環境を守るサポーターを増やすためにも、今年はポスティングを継続することとしています。農家から販売される農産物の情報を得ながら、旬の野菜や果物を消費者に伝え、興味を持つ

もらえるように工夫していきたいと思います。チラシは1回当たり700世帯に配布しています。また、新聞や各種放送局の取材にも積極的に応じ、メディアを通した宣伝活動も実施しています。



出店農家(4月～7月)

楽園果実石橋農園 無農薬の果物や野菜、卵
農事組合法人One 無農薬のレンコンやニンニク等
アグリ・タボ 無農薬の野菜やハーブ
藤木農園 スイカを専門に栽培、夏のみ出店
ハーブ農園ペザン ハーブ、パセリ、セロリ
すずめ野菜 ズッキーニなど無農薬の多品種野菜
菜友館 無農薬野菜、完全無添加加工品
あんがとう農園 自然栽培メイン、多品種野菜
能登島自然の里ながさき 能登島の山菜や海藻
すみれ農園 中山間地で自然栽培の多品種野菜

商品取り置きサービスのご案内

マルシェの人気商品は早い間に売れていきます。このため帰宅時間が遅い方でも購入できるよう取り置きサービスを開始しました。マルシェ当日にフェイスブックに情報を掲載します。受付時間：当日の12時まで。取り置きは18時30分まで。電話にてお申し込みください。（電話 076-288-5803）

URL <https://www.facebook.com/kanazawayugure/>

生きもの元気米宅配サービス

9月には生きもの元気米の新米がマルシェに並ぶ予定です。マルシェで購入された方には金沢駅西の周辺でしたら、スタッフがご自宅までお届けするサービスもあります。ご希望の方は下記のご連絡先までお問い合わせください。

新規出店農家の募集

環境に配慮して野菜を作っている農家さん、有機肥料や農薬を使わずに栽培する農家さん、ぜひ、マルシェに参加しませんか。お客様と対話しながらの販売は何よりのやる気につながります。

参加についての問い合わせは、下記メールアドレスまで。お電話でも受け付けています。

メールアドレス info@marche.jpn.org

電話 076-288-5803

ホームページ <http://marche.jpn.org/>

金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ・出店農家さんのご紹介①



楽園果実 石橋農園



河北潟干拓地にある楽園果実石橋農園では、果樹や野菜、米を栽培し、ニワトリを放し飼いされています。モモ、ナシ、イチジク、ブドウと色々な果物がなる果樹園では、希望者にもぎとり体験も受け付けています。野菜はハウスと露地栽培を併用し、季節のお野菜はもちろん、金時草などの加賀野菜や、紫色の水菜(紅法師)や甘味のある尖ったキャベツ(コーンシェイプキャベツ)など少し変わった野菜が栽培され、マルシェでも訪れるお客様達を楽しませています。

ニワトリは、ネラとアローカナという品種を飼育されています。アローカナは青色をした珍しい卵を産みますが、血中コレステロールを下げるレシチンがふつうの卵の2~3倍も含まれているとのことです。ニワトリは毎日、園内で栽培された無農薬の野菜や果物や虫を食べて、元気に走り回っており、元気なニワトリから生まれた卵の黄身は大きく盛り上がって張りがあります。



マルシェでは、野菜や放し飼い卵が人気で、ハート型きゅうりを買い求める方もみられました。旬をむかえたモモにも期待が寄せられており、農薬を使わずに栽培された珍しい果物は、子供たちにも安心と喜ばれています。糖度が高く甘みがあって美味しい、疲れた体もうるおいます。試食もでき、このチャンスをお見逃しなく！



石橋さんの生きもの元気米

今年から「生きもの元気米」の取り組みにも参加されています。園主の石橋英朗さんに参加への思いをお聞きしました。「自分が食べたいと思うものを目指した結果、農薬を使わないことを基本に栽培する農作物が増えていきました。試行錯誤を重ねて、いい農作物を作りたいと考えています。生きもの元気米の取り組みは2014年に話を聞いたときから興味があり、私の作っている米も皆様に食べてもらいたいと思って参加しました。」。石橋さんの生きもの元気米は今年1,500kgを契約しました。秋からマルシェでも販売されます。またネットからもご注文いただけます。（右のQRコードからもアクセスできます。）



河北潟湖面利用協議会

問題提議から10年が経ちました

2015年6月21日（日）に第8回河北潟湖面利用協議会が開催されました。河北潟自然再生協議会の代表世話人の小谷達郎氏から挨拶があり、当研究所の理事長の高橋久より「河北潟湖面利用協議会の発足の経緯とこれまで」について説明しました。その後、ルールの普及状況や、課題、見直しの点、野生生物の保全について活発な意見交換がなされました。この協議会では様々な立場の人を集め、より良い利用にむけて活発な議論がかわされます。発足の経緯とこれまでについて、簡単に記録します。

2005年5月 「河北潟自然再生協議会」の第4回総会において、大きく2つの点が問題提起された。

- 1) 河北潟の湖面を利用したレジャーが増え、湖岸に生息する野鳥その他の野生生物への影響が懸念される。
- 2) 河北潟の利用指針と、それに基づいた具体的なルールのたき台をつくり、利用者とともに行政機関への申し入れをおこなう。

2005年9月 河北潟自然再生協議会例会において、バス釣り団体が中心となって、湖面利用の現状把握を進めることが決まる。

2006年9月 湖面利用ルールづくりをテーマとして、河北潟自然再生協議会の例会が開かれる。

モーター舟を使うレジャーに、バス釣りのほか、ウェイクボード、ジェットスキーなどがある。
→多様な利用形態、幅広い利用者がいる。

自主ルールを決めた活動をしている団体もある。
→自主規制、話し合いによる問題解決の可能性

2007年7月 「河北潟におけるモーター舟・水上バイク等の使用状況と問題点（仮）」作成。

2008年8月 「河北潟の湖面利用について考えよう、とくにモーター舟・水上バイク等の使用状況と問題点について」作成

- 河北潟のレジャーによる水辺利用の現状が図示された。
- 以下4点が提案された。
- 湖岸植生や野生生物が多く、カヌーコースのある東部承水路については、高速でのモーター舟の運行を禁止。

- 不法停留に対しては対策を講じる。
- ウェイクボードについては、東部承水路を含まない河北潟調整池内においてのみ運行し、同時に2艇以上の運行が起らないように調整する。
- 湖面利用のルール策定のための協議会を設置する。

話し合いにより進め方の基本方針が決まった。
「関係者の話し合いによる問題解決」である。

つぎに話し合いのフレームづくりが進められた。

2007年8月2日 県土木部（県央農林）

所長より、本庁土木部や農林部、自然保護課と相談する、県も含めて湖面利用の協議会をつくりたいと思うが、その際には再生協議会に窓口となってほしいとの見解が述べられた。

2007年10月14日 釣り団体等との意見交換

2008年3月25日 行政との話し合い

（金沢市、津幡町、河北潟環境対策期成同盟会、県水環境創造課、北陸農政局）

2009年6月「河北潟の湖面利用を考える集い」開催
参加者 48名（フナ陸釣り2名、バスポート9名、カヌー・手こぎボート4名、ウェイクボード2名、NP0・野鳥専門家6名、農家・住民16名、行政6名、マスコミ2）

- 自然保護の点では意見の隔たりはなかった。
- 暫定的に、連絡事務局を設置し当面は河北潟自然再生協議会が事務局となる。
- 秋にもう一度話し合いをおこなう、当面の利用ルールとして、東部承水路や競馬場裏手の野鳥の多いエリアはできるだけ利用を避けるということを確認した。

2009年10月「第2回河北潟の湖面利用を考える集い」

- 喫緊の問題である、モーター舟に関しての利用制限エリアについて協議、ルールを定めた。
- 参加各団体が河北潟の湖面利用にあたって尊重し、各団体によって自主的に運用していくことを確認。
- 集いに参加していない団体へも、河北潟の自然環境保全と適正な湖面利用のため、このルールの普及し理解を求めていくことを確認した。

2010年2月「第3回河北潟の湖面利用を考える集い」

- 詳細ルールが採択される。
- 湖面利用協議会の発足（第3回集いを第1回協議会とする）
- 年2回の協議会を開催することが決まる。
- ルールのチラシを作成し普及することが決まる。

以降の話は次号vol. 21-2につづく。

七豊米 の米づくり

7つの豊かさ、7つのこだわり七豊米

「七豊米」の米づくりでは、お米のできる自然の豊かさ（土、水、お日様、栄養素、風、人、生きもの）に感謝して、水苗代、手植え、手作業の草取り、稲刈り・手刈り、稲架干し、ゆっくり精米と、大勢で協力してとことん手間暇かけることにこだわり、無農薬で栽培しています。

春先の準備：燻炭づくり、畦塗り

春先、水苗代の準備に燻炭をつくりました。初めての試みです。燻炭とは穀殼燻炭で、昨年の七豊米の穀殼を煙でいぶします。はじめに田んぼにワラを置いて火をつけ、その上に円錐に煙突が付いた形の「燻炭器」をかぶせ、まわりにモミガラをかけて待ちます。畦塗りなどをしながら待ちますが、燃えすぎると灰になるので注意がいります。朝から始めて、お昼過ぎにはできました。



昨年の種糲を発芽させました！

昨年収穫した七豊米の一部を、種糲として保存していましたが、4月に芽出しあせました。

水苗代で苗をそだてます

4月30日、田んぼの隅に水苗代をつくりました。昨年つくった経験から、短時間で作業できました。燻炭をまいた苗床に、事前に芽出しあせた種糲を、まんべんなく撒いて完成です。

その後、苗は順調に育ち、昨年の種糲から発芽させた苗のみで、田植えがおこなわれました。



田植え 5月24日

河北潟の田んぼ学校・田植え体験が、穏やかな五月晴れの中おこなわれました。たくさんの方にご参加いただき、ぶじに田植えを完了させることができました。田んぼの泥の感覚に戸惑ったり、慣れない泥の上での作業でしたが、親子や友達同士で声をかけあう姿がみられ、田んぼは賑やかでした。ハッタミミズやオタマジャクシに、子どもたちが興味津々でした。

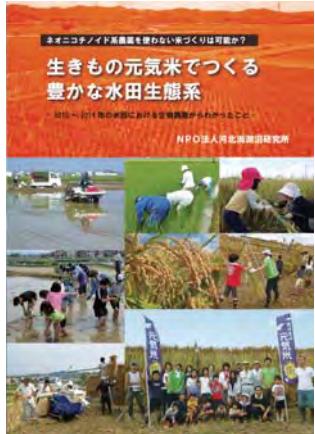


田んぼ観察会 6月14日

田植えから3週間、稻の生長ぶりに喜びつつ、小さな雑草がたくさん出てきましたので、みんなで草取りをしました。畦に一列に並んで、稻の間を歩きながら草を抜いて埋めていきます。よろけるので時々悲鳴があがりながらも、根気よく草が取り除かれました。休憩を入れた後、生きもの調査をおこないました。ふたたび田んぼの中に入つて、水や泥の中にいる生きものを網で採集しました。昨年も参加したご家族から、カエルの数が増えたとの声があがり、大きなトノサマガエルは隠れて全員では観察できませんでしたが、田んぼに生みつけられた卵塊をじっくり観察しました。最後は河北潟の生きものを取り札にした「かほくがた田んぼのいきもの百人一首」をおこない、今日見られた生きものと照らし合わせました。

アクトビヨンド成果報告会

活動助成をいただいている2014年度「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」公募助成の成果報告会が、3月29日に東京都港区の島嶼会館にて開催されました。公募助成4件について、1年間の活動成果が発表されました。当研究所は、「生きもの元気米（生物多様性認証米）の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大」について、理事長の高橋より報告しました。



3月に冊子「生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」を制作しました。生きもの元気米の紹介と、水田の生物調査の結果をまとめたものです。冊子は、生きもの元気米をご注文いただいた方にお渡ししています。またご希望の方には無料で配布していますので、事務局までご連絡ください。

第21回 河北潟クリーン作戦

2015年4月19日、河北潟の湖岸7地点で河北潟クリーン作戦がおこなわれました。約600名の参加により、約65立米（推定5.6トン）のゴミが回収されました。年々減少しているもののたくさんのポイ捨てゴミが風波で湖岸に打ち寄せられています。今回、各会場にて、河北潟自然再生協議会による河北潟川柳の投票がおこなわれました。事前の募集により「河北潟」「ゴミ」「自然再生」をテーマにした川柳が29句が集まり、思い思いの句に各会場で投票に盛り上がったようです。

- 1位 河北潟ざわざわさん（35歳 女性）
河北潟 地域の鏡 ごみゼロに
- 2位 長谷川 恵子さん（73歳 女性）
「オーイ」行くぞ デートはいつも 河北潟
- 3位 遠田 勝良さん、亀公子さん
ゴミ拾い 歩いた後の 気持ちよさ



町家の「すずめ野菜」販売

金澤駅から歩いて10分程の場所にある町家で、「すずめ野菜」のPRと販売を開始しました。この町家は明治中期に建てられ、昭和初期から漁網店として近年まで使われていましたが、漁網の生産が停滞し、家主である紙谷さんが管理しています。この界隈は小売の商店がありましたが、現在は高齢化も進んで、買い物に不便な状況となっています。金澤町家巡遊2014のイベントをきっかけに、紙谷さんの好意もあり、今年6月より毎年2回、スタッフが朝収穫した野菜を直接販売しています。

紙谷漁網店：
金沢市笠市町10-1
(笠市郵便局向かい)



全国ハッタミニミズダービー

昨年、琵琶湖では92cmのハッタミニズが見つかりました。河北潟では長い！と思っても70cm台までしか見つかっていません。まだ調べた数は少なく、大物がどこかに潜んでいるかもしれません。河北潟から日本一を見つけましょう！

うちの田んぼに潜む大物を掘り起こせ！

ハッタミニズをご存知でしょうか？日本最高長のミニズです。
ここ1,2年、テレビ・ラジオや新聞でもよく取り上げられています。

現在のところ、滋賀県甲賀市で見つかった92cmが日本記録です。
しかしここにハッタミニズの本家、石川・河北潟から最新状況が！

そこでこのたび、全国的な分布調査を兼ねて「全国ハッタミニズ・ダービー」を開催することになりました。
皆様のご参加をお待ちしております。

これが糞塊だ！

★糞粒の直径1~2mmほど。
★ヒースのように連なっている部分がある。

これがハッタミニズだ！

★頭はつくしのような形
★はかま（環帯）は目立たない
★黒ずんだ赤紫色
★たいへんよく伸びる

見つかる場所はほとんどが、田んぼか、かつて田んぼだったところ（放棄水田、ハス田など）です。粘土質の耕された田んぼが好みのようです。土木工事の底泥さらうで出ることもあります。
これまで、石川県の河北潟周辺、福井県の三方湖周辺、そして滋賀県・琵琶湖集水域の広い範囲から見つかっています。さらに北海道、奈良、大阪などからも未確認情報が…。

開催期間 2015年5月1日～11月30日

編集後記

皆様の多大な応援により生きもの元気米、早期予約のご注文をいただき、生産数UPにつなげることができました。挑戦がつづきますが、スタッフ一同、生きものの元気米、七豊米、すずめ野菜の生産により、フル回転で活動しています。(N.)